

1

## 労災疾病等 13 分野医学研究・開発、普及プロジェクトについて

独立行政法人労働者健康福祉機構 総括研究ディレクター 関原 久彦

独立行政法人労働者健康福祉機構では、労災病院グループが勤労者医療の中核的役割を果たすため、労災疾病等 13 分野医学研究・開発、普及プロジェクトを 2004 年から開始した。合計病床数約 14,000 床、年間の入院患者数約 230,000 人、1 日当たりの外来患者数約 36,000 人の労災病院グループによる大規模臨床医学研究である。

5 年間に及んだ第 1 期の研究は、2009 年をもって終了した。研究対象となった労災疾病等 13 分野及び主な研究の成果は表 1 のとおりだが、粉じん等による呼吸器疾患、アスベスト関連疾患、振動障害、化学物質の曝露などによる産業中毒などの労災疾病に加えて、業務の過重負荷による脳・心臓疾患（過労死）、勤労者のメンタルヘルス、働く女性のためのメディカル・ケアなど、最近日本の勤労者の方々に問題となっている課題にも取り組んでいる。

これまでに得られた研究成果は、冊子にまとめ、労災疾病等 13 分野研究普及サイト：<http://www.research12.jp> にて公開しているが、これらの成果が、今後のアジアの国々との交流を通して、アジアで働く勤労者の方々のお役に立つことを念願している。

表 1 労災疾病等 13 分野医学研究第 1 期研究成果一覧

分野及び研究センター		設置病院	主な研究内容
①	四肢切断、骨折等の職業性外傷 職業性外傷研究センター	燕労災病院	○手指切断受傷時の重症度スコアから再接着後の機能回復の程度、復職の可能性の予測法を確立 ○手指切断後の異所性再接着や WAF 法での治療法の選択肢拡大
②	せき髄損傷 勤労者 脊椎・脊髄損傷研究センター	中部労災病院	○MRI 計測により日本人の頸椎及び頸髄の標準値を設定、高齢労働者での頸部脊柱管狭窄症の増加を指摘
③	騒音、電磁波等による感覚器障害 勤労者 感覚器障害研究センター	大阪労災病院	○糖尿病に罹患した労働者の血糖コントロール不備の現状と就労の関係を解明
④	高・低温、気圧、放射線等の物理的因子による疾患 勤労者 物理的因子疾患研究センター	東北労災病院	○理・美容師の接触皮膚炎の原因となっている理・美容製品をパッチテストを用いて解明、陽性に出た製品を変更したら、手荒れが完治したとのアンケート結果 ○研究成果が、業務上疾病の範囲を検討する労働基準法施行規則第 35 条専門検討会の議題となる
⑤	身体への過度の負担による筋・骨格系疾患 勤労者 筋・骨格系疾患研究センター	関東労災病院	○労働者の腰痛の発症要因として、作業姿勢、作業動作、作業環境に加えて、心理・社会的要因が関与していることを解明
⑥	振動障害 振動障害研究センター	山陰労災病院	○振動障害の客観的診断を可能とする FSBP% (Finger Systolic Blood Pressure%) 法を確立
⑦	化学物質の曝露による産業中毒 産業中毒研究センター	東京労災病院	○医療器具の殺菌消毒剤のオルトフタルアルデヒドによる中毒例を世界で初めて報告 ○問題となった有毒化学物質の新たな曝露指標の確立
⑧	粉じん等による呼吸器疾患 職業性呼吸器疾患研究センター	北海道中央労災病院	○最近のじん肺症例の胸部レントゲンをまとめた症例集の作成 ○経時サブトラクション法によるじん肺合併肺がんの早期診断法を開発 ○CT3 次元表示法による胸膜ブランクと助間静脈との鑑別診断法を開発 ○FDG-PET によるじん肺結節と肺がんとの鑑別診断法を開発
⑨	業務の過重負荷による脳・心臓疾患 (過労死) 勤労者 脳・心臓疾患研究センター	関西労災病院	○長時間労働がメタボリックシンドロームの発症要因になっていることを解明
⑩	勤労者のメンタルヘルス 勤労者 メンタルヘルス研究センター	横浜労災病院	○労働者がいつでもどこからでもインターネットを用いてメンタルヘルスチェックを行うことを可能とした「MENTAL-ROSAI」の開発 ○脳血流 <sup>99m</sup> Tc-ECD SPECT を用いたうつ病の客観的評価法の確立
⑪	働く女性のためのメディカル・ケア 働く女性健康研究センター	和歌山労災病院	○女性特有の月経痛、更年期障害が女性労働者の QWL を低下させていることを指摘 ○夜間労働時の光刺激が血中メラトニン濃度に及ぼす影響を解明 ○女性外来のモデルシステム構築には「総合性」が必要なことを発信
⑫	職業復帰のためのリハビリテーション 勤労者 リハビリテーション研究センター	九州労災病院	○脳血管障害発症時の所見から、治癒後の職場復帰の可能性の予測法を開発
⑬	アスベスト関連疾患 アスベスト関連疾患研究センター	岡山労災病院	○中皮腫の救命率を高めるため、Stage I と II での早期診断率 (現在 29.6%) の向上が必要であることを指摘 ○胸水中の癌抑制遺伝子のメチル化を用いた中皮腫の早期発見・診断法の開発

まず「粉じん等による呼吸器疾患」分野及び「アスベスト関連疾患」分野について紹介する。